学会便り

第4回男女共同参画セッション「身近な無意識のバイアス」

The 4th Gender equality session “Unconscious bias around you”

巽　明彦
Akihiko TATSUMI

2021年5月オンライン開催された第140回春期大会中に，第4回男女共同参画セッションが開催された。本セッションでは，これまで学会における男女共同参画とは何か，学会・軽金属分野で男女が共に活躍するために何が必要か，若手研究者・技術者の育成やキャリアパス形成の現状はどうなっているかについて会員に情報提供と議論の場を提供してきた。第4回男女共同参画セッションでは，男女共同参画，ダイバーシティの取り組みを理解する上で重要な無意識のバイアスについて株式会社ダイバーシティオフィスKITAO代表 北尾 真理子 氏にご講演いただき，60名を越える方にご参加いただいた。

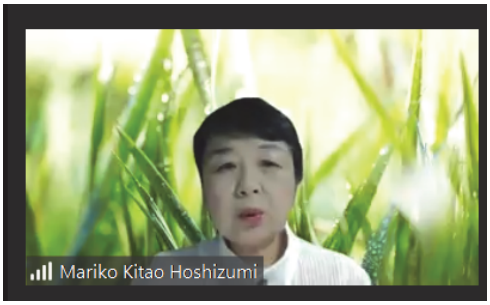

図1　講演の様子

講演の冒頭で，ダイバーシティ（多様な個性・属性）についての事例紹介いただき，目に見える属性よりも，見えない個性・属性が多いということに気づきがあった。無意識のバイアスとは物事を考えるときに自分が持つ経験，知識，情報に基づき自分の解釈で判断することで，特定の属性の人たちを決めつけてしまい，多様な価値観を持つ方とのコミュニケーションの阻害原因になる。無意識のバイアスは言葉の変化にも影響し，従来，ある性別の多かった職業も現在は性別関係なく仕事をされているので，呼び名が変わった職業（例えば，看護師，キャビンアテンダントなど）もあることに気づかされた。

ダイバーシティはより良い組織づくり，優秀な人材の獲得，働く人たちの能力発揮，アイデア創出の観点でも重要である点が示され，企業，大学における組織として取り組む必要があることがうかがえた。ダイバーシティの推進にはリーダーシップとコミュニケーションが必要で，リーダーシップについては，人をケアする（思いやる，いたわる）気持ちと人に要求する気持ちのバランスの取れていること，タイムリーに周囲に助けを求めることもスキルの一つとのこと。コミュニケーションについては，違い（個性）があることを知り，違いを受け入れ，違いの溝を埋め，より良い結果を目指すことであるとのこと。ダイバーシティにより多様な意見，アイデアが出たなかで，目的，共通の価値観をもとに収束することを行わないと単なるわがまま集団になってしまうので，収束していくこともダイバーシティ活用中で重要なポイントと感じた。ダイバーシティは解決すべき課題ではなく，活かすべき強みであるとの考え方もまさに，強い組織づくりには必要な点であると感じた。

無意識のバイアスに陥らないためには言葉遣いについて触れておられ，例えば，「すべてが当てはまるとは言わないけど」，「あなたにとっては○○かもしれないけど」，「私にとっては□□だ」などと，自身の固定観念を一般化するのではなく，多様な観念があることを意識することが重要だと感じた。

最後に，今後，意識を変えていくためには行動することが重要とのことで，自身の行動に落とし込むことを講演の締めくくりとされた。著者自身も無意識のバイアスについての気づきを周囲に伝えることを今後の行動目標としたいと考えている。講演の後の質疑応答やその後のRemo懇親会でも北尾氏を囲み，活発な議論がなされた。

シンポジウム後のアンケートでは無意識のバイアスについて知らなかった方たちも理解がすすみ，理解がむずかしかった方がいなくなったことは良かった。具体的事例や先進事例などより詳細に聞いてみたいなどのニーズもあることがわかり，今後の企画にも反映していきたい。

男女共同参画員会では軽金属学会70周年記念企画として，9月末開催で無意識のバイアス，ダイバーシティに関する研修会，11月に記念シンポジウム，パネルディスカッションの企画準備中である。今回のシンポジウムで無意識のバイアス，ダイバーシティに興味を持たれた方はそちらの方へもぜひ，ご参加いただきたい。男女共同参画委員会では引き続き，学会活動における男女共同参画，ダイバーシティの推進，若手研究者・技術者の支援についてシンポジウムなどの各種企画を検討しており，会員の皆さまのご理解，ご支援をいただきたくよろしくお願いします。

株式会社神戸製鋼所（神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4）
受付日：2021年6月9日